

令和3・4年度 大田区教育委員会教育研究推進校

令和2～4年度 文部科学省・国立教育政策研究所 実践検証協力校

研究主題

# 豊かなかかわりの中でよりよい人間関係を築き 集団や社会に貢献できる児童の育成

## あいさつ

大田区教育委員会教育長 小黒 仁史



本校は、令和3年度・4年度大田区教育委員会教育研究推進校として、研究主題「豊かなかかわりの中でよりよい人間関係を築き 集団や社会に貢献できる児童の育成」を掲げ、特別活動の実践的な研究を重ねてられました。この度、研究をまとめ、その成果を発表していただくことに、心より感謝申し上げます。

特別活動は、昭和33年に教育課程に位置付けられて以来、子どもたちに共生社会の担い手として欠かせない資質・能力である自治的能力や人間関係形成力を育成してきました。子どもたちによる自発的、自治的な活動は、学級や学校におけるよりよい生活や人間関係をつくるとともに、互いを尊重し認め合う支持的な風土を醸成し、学力向上やいじめの未然防止にもつながると考えられ、その果たす役割は大きなものであります。

本校は、学習指導要領改訂に伴う変更点を踏まえ、「なすことによって学ぶ子ども」の育成を目指し、話し合い活動の充実を図りながら、特別活動の4つの柱（学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事）、その全ての指導の改善につながる取組を実践的に研究してられました。特別活動の研究において、このように幅広く、多面的に取り組まれたことは、本研究の特長でもあります。

この研究紀要を御覧の方々には、本校の研究を参考にいただき、児童・生徒が集団や社会の形成者としての見方や考え方を働かせながら、よりよい自分や学級・学校生活、人間関係を築く活動を通して、共生社会でよりよく生きる力を獲得できるよう、自校の特別活動の指導の改善や工夫につなげていただきたいと思います。

結びになりますが、本校の研究に際し、御指導、御助言を賜りました文部科学省初等中等教育局教育課程課 視学官 安部 恭子先生をはじめ、講師の皆様にも厚く御礼申し上げます。また、研究に取り組まれた入新井第五小学校 岡野 範嗣校長先生をはじめ教職員の方々、本研究に御理解と御協力をいただきました保護者、地域、関係者の皆様にも深く感謝を申し上げます。

## はじめに

大田区立入新井第五小学校長 岡野 範嗣



本校は、令和2年度に文部科学省・国立教育政策研究所「実践研究協力校」として特別活動の研究を開始し、翌年令和3年度には、大田区教育委員会より児童相互の人間関係形成と集団や社会に貢献できる児童の育成に深くかかわる特別活動の推進について、2年間の研究指定をいただきました。このような、学ぶ機会を与えていただきましたことに、まずは感謝を申し上げます。

さて、この3年間の研究ですが、ここまで長引くとは思わなかったコロナウイルス感染症の脅威で学校では様々な制限が継続され、特に特別活動のように「話し合い」や「人とのかかわり合い」が中心となる活動では、まさに逆境の中での研究であったと言わざるを得ません。しかし、このような厳しい状況下ではありましたが、ウィズコロナ時代においても明るく楽しい学校の雰囲気を作り出すことを最優先に考え、学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事を進める上で何ができるかを探り、試行錯誤を繰り返しながら研究の歩みを進めてまいりました。

私たちが3年間の研究を終り、皆様にお伝えしたい大切なことは、「個人と個人、個人と集団、個人と社会とのかかわりの中で、互いのよさや可能性を發揮しながら、よりよく成長していける児童を育てていくこと」、このことこそが学校における、特別活動の大切な役割だということです。

人はそれぞれいろいろな考えがあり、集団で物事の答えを出すことは簡単ではありません。しかし、児童が人とのかかわりの中で自分自身の問題として向き合い、異なる様々な意見と折り合いをつながら答えを出していけるようになるとしたら、それは、とても素晴らしいことだと言えるのです。このたび、本校において実践してきた様々な集団活動を指導資料集としてまとめました。教科のように教師用指導書のない特別活動です。ぜひ、各校で活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、連日全国をまわり特別活動の推進に御尽力されております文部科学省初等中等教育局視学官 安部 恭子先生を年間講師としてお招きし学ばせていただけたこと、また、本校の研究を支えていただきました大勢の講師の皆様方のお力添えに、心から感謝を申し上げます。

大田区立入新井第五小学校



# 研究の概要

## 1 研究主題

豊かななかかわりの中でよりよい人間関係を築き

集団や社会に貢献できる児童の育成

## 2 主題設定の理由

令和3年4月、本校は前年度の校内研究課題「特別活動」を継続させ、令和2年4月から全面実施された新学習指導要領の改訂の趣旨を押さえた2年間の研究を本格化させました。まず、本校の児童の実態を様々な角度からつかむ中で、今後特別活動の充実を図ることにより期待できる「目指す児童像」を明らかにしました。以下の2点を、本校が考える児童の理想の姿と考えました。

- 学校生活の様々な場面で必要となる言葉と心によるコミュニケーション力を身に付け、人との豊かななかかわりの中で、よりよい人間関係がつけられる子。
- 明るく元気で素直な児童のよさを生かしながら、どのような場面でも自分自身の考えに自信をもち、学級や学年・学校の友達、さらに、将来は社会のために力を発揮しようとする子。

これら目指す児童像を実現させるために「望ましい人間関係形成」「人のために役に立とうとする社会参画意識」「自らの夢や希望をかなえようとする自己実現」の3つの視点を手掛かりとし、「特別活動の授業づくり」と「児童の自発的活動を促す指導」について研究を進めることになりました。このことは、本校の教育目標である「自立」と「共生」にも、深く結びつく大切な視点であると考えました。また、コロナ禍における会話の自粛、ソーシャルディスタンスの確保、班になっての話し合いや大人数が一堂に会して行う活動は当面避けるといったコミュニケーション場面の制限により、仲間同士のつながりが薄くなることを懸念する一方で、時代が求めるICTのよさを十分に認めつつも、ICTでは対応しにくい人間関係づくりやコミュニケーション力の育成、FACE TO FACEでこそなし得る心と心のつながり合いといった部分を、特別活動の様々な活動を通して補っていけないのではないかと考えました。

さらに、目指す児童像の実現のためには、私たち教師が今まで行ってきた特別活動の各分野での取組や、児童への指導がどうであったのかについても振り返る必要がありました。今までの認識は、

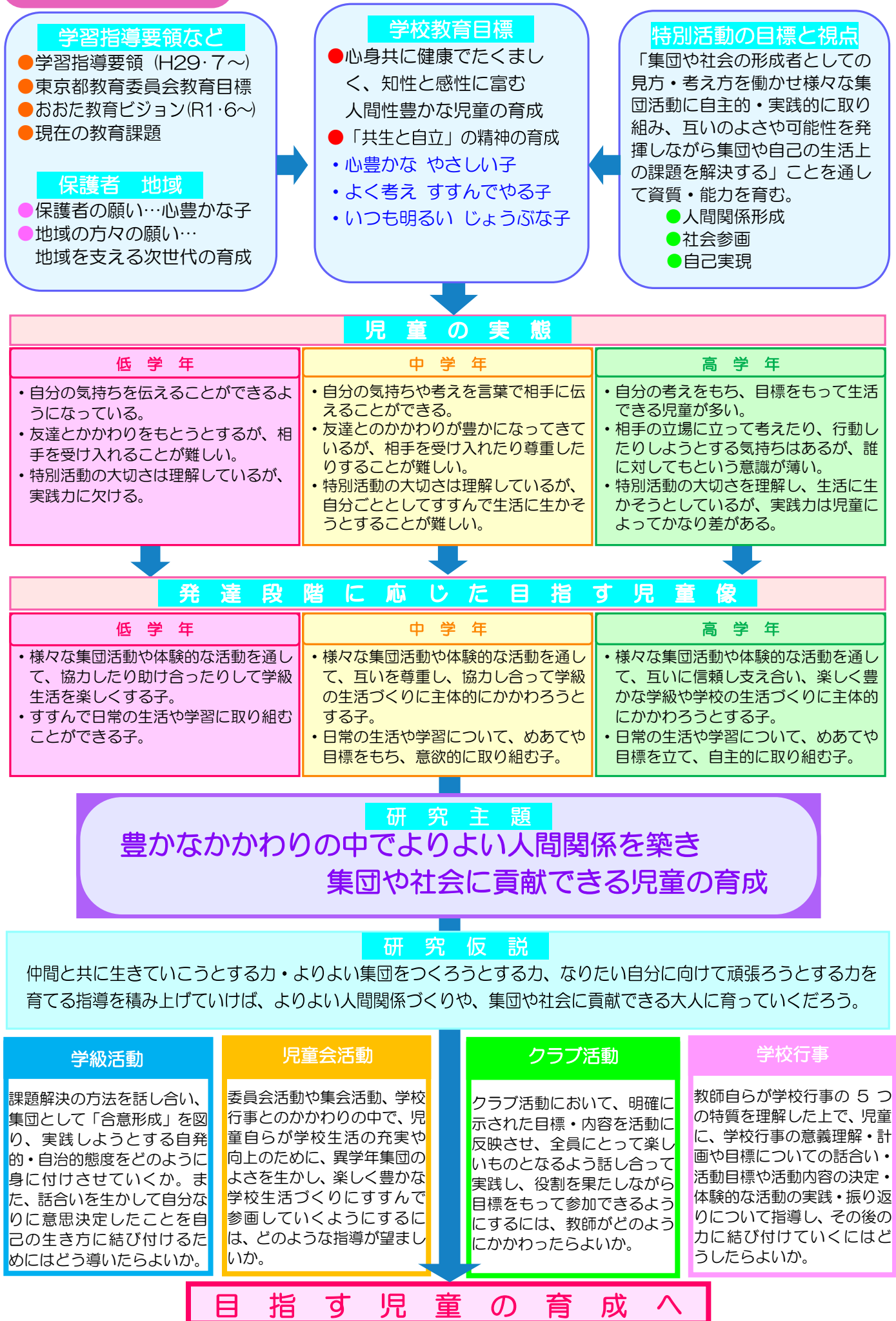
- 学級活動をはじめ児童会活動やクラブ活動、様々な学校行事を特別活動の領域で扱うことは知っていても、自分が今まで経験してきた知識やイメージに頼る部分が少なくなかった。
- 特別活動の各活動を行うにあたり、計画の段階や実践の場面で、児童の自主性や主体性を十分に引き出しきれていなかった。まず教師自身が、特別活動への理解を深める必要がある。

小学校学習指導要領解説（特別活動編）には「なすことによって学ぶ」という用語がらか所もあるように、特別活動では「なすことによって学ぶ」ことを方法原理としており、本校が目指す児童像の具現化のために、教師は手取り足取り指導するのではなく、放任ではない適切な指導の下、児童自らが自主的・実践的な活動に取り組む前向きな胎動を下支えし、結果として力を身に付けていけるようにすることを共通理解しました。これらの様々な考えを踏まえ研究を重ねることで私たちが目指す理想の児童の育成が図れると考え、研究主題を「豊かななかかわりの中でよりよい人間関係を築き 集団や社会に貢献できる児童の育成」としました。

## 3 研究の方法と紹介したい取組

- 1 特別活動の研究で一番大切にしてきたのは学級活動・・・4ページ
- 2 研究の進め方 参考資料・映像資料・ICTの活用・・・5ページ
- 3 リーダーの育成と主体的な活動を支えるための取組・・・6ページ
- 4 日頃の特別活動の取組を保護者・地域に発信・・・7ページ

## 4 研究構想図



# 1 特別活動の研究で一番大切にしてきたのは学級活動

## ● なぜ、学級活動、特に(1)の話合いを大切にしてきたのか

特別活動は、学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の4つの内容があり、さらに、それぞれ細分化された活動があるため、その指導内容は多岐にわたります。

### 特別活動

#### 学級活動

##### 学級活動(1)主に学級会

学級や学校における生活づくりへの参画

##### 学級活動(2)

日常生活や学習への適応と

自己の成長及び健康安全

##### 学級活動(3)

一人一人のキャリア形成と自己実現

今回の改訂で新たに加わった

#### 児童会活動

異年齢集団の児童による

自発的・自治的な活動

・代表委員会活動

・委員会活動

・児童会集会活動

など

#### クラブ活動

4年生以上の異年齢の児童による自発的・自治的な活動を通して、共通の興味・関心を追求する

・クラブの成果の発表

・全教職員で指導

・年間・学期・月ごとに適

切な授業時数をあてる

大田区は、45分×20、60分×15など、年計900時間

#### 学校行事

学校・学年の児童が、体験的な活動を通して、学校生活のさらなる向上を図る

・儀式的行事

・文化的行事

・健康安全・体育的行事

・遠足・集団宿泊的行事

・勤労生産・奉仕的行事

事前・事後指導の充実

学級経営の  
充実

各教科での  
話合いの力

道徳的な実践の  
機会と場

キャリア教育の要  
としての期待

外部人材  
の積極登用

地域や社会  
への貢献

特色ある  
学校づくり

本校は、上記すべての内容について研究実践を行いました。特に重点的に取り組んだのは、年間 35 時間の指導が位置付けられている学級活動の3つの内容です。特に、学級活動(1)の学級会を通して身に付ける力の育成には最も力を注ぎました。その大きな理由は、児童相互の話合いが特別活動はもとより、各教科の学習や学校生活の様々場面において、とても大切な役割を果たしているからです。(※学級活動(2)(3)については、別添の指導資料集をご覧ください。)学級活動(1)の指導で、大切にしてきたことは…

- みんなで楽しく豊かな学級・学校生活にするため、様々な課題を見付け学級全体で議題を決められるようにする。
- 内容や方法、役割分担について意見を出し合ったり、比べ合ったりしながら話合いができるようにする。
- 意見の違いや、様々な考えを認め合い、折り合いをつけながら集団としての合意形成が図れるようにする。
- 決定したことについて、自分の役割を果たしながら、互いのよさを生かして協力し実践できるようにする。
- 一連の活動や実践の成果や課題を振り返って、次の課題解決に生かせるようにする。

学級会を進めるとき、最初から議題を決めたり、話合いを進めたりすることは簡単ではありません。さらに、30人前後の児童の考えを集約し決定するということは、なかなかハードルの高いことと言えます。しかし、これらのことも学級づくりを始める4月から、少しずつ学級会と話し合ったことの実践を繰り返す経験を積み、児童一人一人が自信をもてるようになり、ひいては、教師の力を借りなくても自分たちの力で話し合って決められるようになります。2年間の研究で、たとえ1年生であっても、経験値を高める指導を積み、立派に話し合って決められるようになることも証明されています。また、1年生の入門期から6年生までの学級活動(1)の指導を、私たち全教師が同じ指導観をもって組織的に取り組めば、より素晴らしい話合いができる子どもたちに育てていくことも実感することができました。やはり、特別活動で一番大切にしたいことは、「自分たちで話し合って、決められるようになる」ということです。このことが、すべての特別活動の実践と豊かな学校生活を送る上で役立つのです。



6年生の話合いはさすがです



自信をもって話す



先生の助言はとても大切

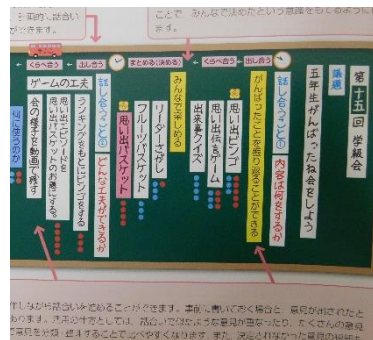


心も一つに 団結

## 2 研究の進め方 参考資料・映像資料・ICTの活用

### ● 特別活動はどのように学べばよいのか。

特別活動について詳しく学びたいという声は少なくありません。しかし、特別活動には他教科や道徳科のような、教科書や教師用指導書といった直接参考にできる書籍がありません。もちろん、学習指導要領や解説（特別活動編）が指導の基本になるのですが、表記内容が難しく、写真等も無いことから、なかなかその内容をイメージすることは簡単ではありません。また、特別活動は、児童の自発的・自治的活動が中心となることから、ややもすると「児童に任せきり」となるケースもあり、「教師の適切な指導」といった言葉のとらえ方が、教師間でまちまちなのではないかという指摘がないわけではありません。そこで、本校では特別活動を研究し校内の児童の自発的活動を推進するにあたって、教師相互が同じ認識の下で組織力を発揮できるよう、学習指導要領と共に、国立教育政策研究所が発行している「特別活動指導資料（小学校編）」という書籍を積極的に活用しています。この書籍は、通称「緑本」というもので、図説や写真を交え、カラーで分かりやすくまとめているものです。学習指導要領に準拠しているので、安心できる指導資料となっています。



### ● 小学校特別活動映像資料（R4. 3）を活用した研究実践



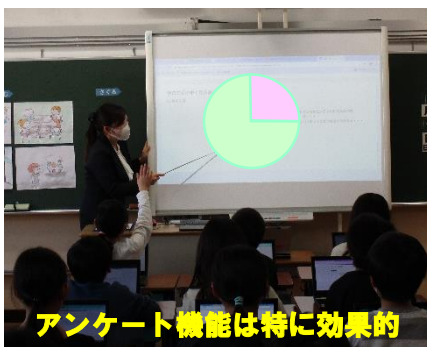
令和4年3月、文部科学省・国立教育政策研究所から、全国の各小学校に3冊ずつ、左記の冊子（A5・24頁）が配布されています。これは、特別活動の学級活動で取り扱う授業内容を、短時間の動画にまとめた紹介パンフレットです。特別活動の学級活動分野で取り扱うべき内容を、誰でも簡単に授業実践できるようにとの目的で作られたものです。本日の、公開授業でも、広く大田区の先生方に知っていただきたいと考え、13学級の授業のうち7学級で資料と同じ内容を取り扱った授業をお見せします。この映像資料は、授業中に直接児童に見せることも可能なものとなっています。「百聞は一見に如かず」ぜひ、御活用いただければと思います。

### ● ねらいを達成するために効果を発揮するICT

児童が短時間に効率よく理解につなげることができるICTの活用は、ここ数年、急速に児童の学習に浸透しました。特別活動では、特に学級活動（2）（3）において、授業の導入の教材提示や学習中のアンケート、終末のまとめなどで効果を発揮しています。これらの機能の効果は児童が多くの友達の考えに触れる上で絶大です。また、児童集会においても、コロナ禍で大勢の児童が集まれないときにICTを活用することで、新しいタイプの集会ができるようになり、少しずつ定着してきました。



画面の映像を見ながら、教師の提示する教材を見ることで、イメージを膨らませやすくなります。



賛成、反対、どちらでもないなどの割合を瞬時に集約しグラフ化できるため、皆が課題に対しどう感じたかを瞬時につかむことができます。



北海道や種子島の小学校と、社会科や総合的な学習の時間でオンライン交流を実施しました。学級活動でもオンライン学級会や交流集会、係活動情報交換を実施しました。

### 3 リーダーの育成と主体的な活動を支えるための取組

#### ● 本校における、主な「縦割り活動」におけるリーダーの育成

児童集会 (1~6年)

縦割り班活動 (1~6年)

クラブ活動 (4~6年)

委員会活動 (5~6年)

● 主に6年生が中心となり、5年生がサポートする。運営はリーダー組織が進める。

- 6年生が活動の数日前に集まり、下級生の意見を反映させながら活動計画を立て、役割を確認する。
- 下級生の発達段階に合わせた内容を考え、分かりやすい言葉・簡単な説明を常に心掛ける。
- 6年生は自らのリーダー性を高めると共に、次のリーダーとなる5年生に範を示しながら育てていく。

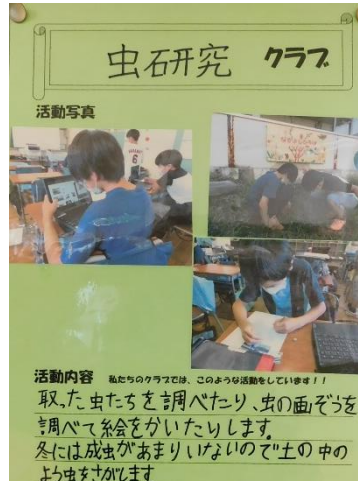
- リーダー性を発揮する経験を積むことで自信が付き、よりよい活動への意欲が高まる。
- 「6年生は学校の顔」を態度で示すことで、5年生以下が一つ一つの行動を手本にしようとする。

● 活動の見通しをもてるよう、6年生が次回のアナウンスをしています。



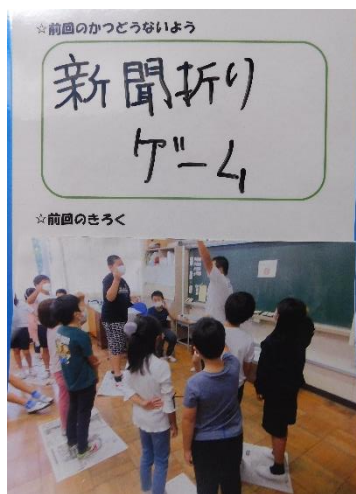
飼育・栽培委員会の一年間の活動や願いを知らせています。ポスターの下には、ホワイトボードがあり、次回の内容をアナウンスしています。

お知らせ  
次の委員会で、ミニ動物園のみんなをします。月曜までに担当の人を持ってこれる動物も、てきてください。小屋のえういかわれず!



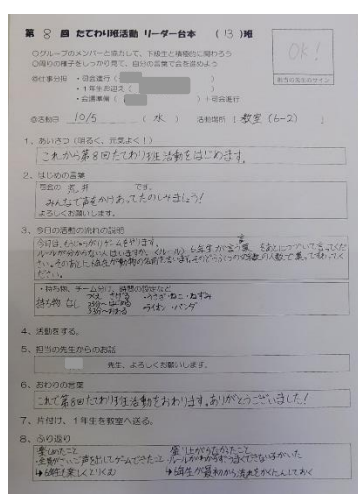
クラブ活動も同様に、写真を交えて、活動紹介をしています。3年生以下も興味をもてるようにしています。

図書室でグループで調べます。タブレットを持って来て下さい。ポスターを作ります。楽しんでください。たがよしうじい(かたがよしうじい)



縦割り班活動もクラブ活動と同様、リーダーが回りの予定をアナウンスします。1年生もよく見えています。

6ばん  
6 ばん  
日 ち  
10月5日水  
かぼし  
木交庭  
かぼせ  
ふえまに  
まきもの  
木交庭



その場だけの活動にならないよう、リーダーは計画をまとめた「リーダー台本」をもっています。



児童会活動(児童集会・代表委員会・委員会活動・縦割り活動など)は、異学年集団による自発的・自治的活動を特質とする教育活動です。教師の適切な指導の下、児童の発意・発想に基づき、創意工夫を生かして活動計画を作成し、自主的・実践的な活動が展開できるようにしています。また、クラブ活動においても、共通の興味・関心をもつ4年生以上の児童が、異学年の友達と話し合って活動計画を立て、見通しをもって互いに協力しながら活動を楽しめるようにしています。ここでも、児童の主体性を大切に、教師がどこでどのような助言をしていけばよいのか、よく考えて行動するようにしています。

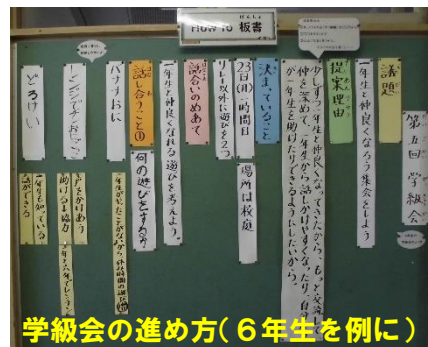
## 4 日頃の特別活動の取組を保護者・地域に発信



入五の一年間の学校行事を紹介



児童会 集会活動の様子を紹介



学級会の進め方(6年生を例に)

### 掲示板の活用(1) 特別活動に関する様々な掲示

本校における特別活動の様々な活動を掲示し紹介しています。児童は、掲示を見ることによって、学校行事や児童会 集会活動などを大切にしようと思います。学級活動(学級会)の進め方など見て学びます。



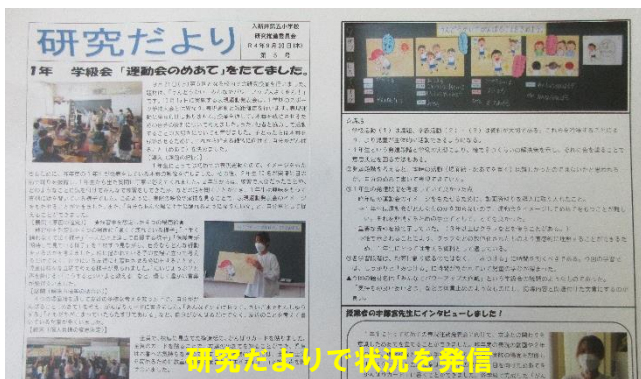
児童が感じたことを紹介



運動会前に意思決定したこと

### 掲示板の活用(2) 友達の考えたことや思いを紹介しています。

友達の書いた作品等を見て、学んだり感じたりします。それぞれの児童が内容を読んで考える姿が見られます。また、保護者に対しても、学校がどのように特別活動の研究を進めているか伝えることができます。



研究だよりで状況を発信



毎日更新の「いりんご日記」で紹介

### 研究だよりの発行(特別活動への理解を求めて)

本校では、研究の内容や研究授業の様子、授業者が学んだことや成果と課題などを、ホームページの「研究だよりコーナー」や、「いりんご日記」(毎日の学校の様子を発信)で保護者・地域に伝えています。地域教育連絡協議会の委員からも、一人一人の教師の真剣な姿勢に評価をいただいています。



PT長会議の風景

### 研究はPT(プロジェクト制)で

研究校の場合、研究主任は事務的にも時間的にも、大きな負担が伴います。また、推進にかかわる連絡・調整にも神経を使います。働き方改革の観点も含め、従来の研究組織を改め、研究主任を置かずに主幹教諭を中心としたPTチームが、全ての研究を回していくという方法をとることにしました。こうすることで、教員相互がほぼ同じ量の仕事を受けもち、無理なく研究を進められるようになりました。

## 5 成果と課題

### 成果

- ・児童が発見した課題をみんなで話し合っ決定し、実践することで、協働的に取り組むよさに気付いた。
- ・相手の意見を尊重しながら聞こうとする態度が身に付き、他教科の話合い活動の充実にもつながった。
- ・一人一人が生活の課題の解決方法について意思決定し、継続して取り組む意識をもたせることができた。
- ・キャリアパスポートを活用することで、なりたい自分についての考えを深めさせることができた。
- ・児童会活動では、異学年で協力して活動する中で、学校生活を充実させようとする意識が高まった。
- ・クラブ活動では、児童が主体となって計画進行したため、学年の枠を超えて仲よく協力する姿が見られた。
- ・学校行事に向かう姿勢が、私（I）から私たち（We）になり、集団の中の一人を意識できるようになった。
- ・導入やまとめにICTを活用したことで、児童の理解が進み、ねらいに焦点化された意見が多くなった。

児童アンケートについては、研究開始時に学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の全てを網羅した21項目の質問を実施した。研究2年目の後半に、同じ21項目の質問を行うことで、変容を確かめた。以下の3項目が、上昇率が顕著だった。また、「目標を決め努力をすることで、自分の将来をよりよくすることができると思う」の項目についてのみ、2.3%の下降が見られた。

学級会で学級の生活をよくするために、自分の考えを発言している	63.6%	10.6ポイント上昇	2年間の伸び幅
児童会活動やクラブ活動で自分のめあてをもって活動している	74.3%	11.3ポイント上昇	
学級活動を通して、嫌な思いをしたり傷ついたりする人がいない生活をつくることができると思う	82.1%	10.4ポイント上昇	

### 課題

- ・学級会の話合いでは、時間内に意見を集約し、合意形成する力をさらに身に付けさせる必要がある。
- ・学級会においてはタブレット端末の操作に集中しすぎないようにする配慮が必要である。
- ・委員会やクラブ活動で、主体性が育ってきた児童が多い。一方、受動的な児童への支援が必要である。
- ・教員の組織変更があっても、1～6年までの指導の連続性を重視し、各学年で継続していく必要がある。

## おわりに

昨年度、始めた特別活動の研究は、当初は初歩的な質問を繰り返したり、基本を押さえることができていないまま、形式だけを整えた学習指導案を提出したりして、講師の先生方を困らせたものでした。講師の先生方のお話を伺うと分かったつもりになるのですが、次の研究授業では、分かっていなかったことに気付かされるということの繰り返しでした。ようやく、分からないことが何なのかが分かるようになり、大切なことを踏まえた指導を、少しずつ自信をもって行えるようになってまいりました。

今年度は、そのようにして進めてきた研究の成果を検証してまいりました。特別活動の最先端の研究とはまいりませんが、本校の教員一人一人が特別活動について、真摯な姿勢で基礎から理解を深め、基本を押さえた特別活動の指導に取り組もうとしてきた足跡が、皆様の学びの一助となれば大変幸いに存じます。

副校長 宮田 浩顕

### 【御指導いただきました講師の先生方】

文部科学省初等中等教育局 視学官 安部恭子 先生	元文科省初等中等教育局 視学官 宮川八岐 先生
前文部科学省初等中等教育局 視学官 國學院大學人間開発学部教授 杉田 洋 先生	
前文部科学省初等中等教育局 教科調査官 帝京大学教育学部教授 赤堀博行 先生	
帝京大学教育学部准教授 佐野匡先生	元全国特別活動研究会会長 上原正義先生
	大田区教育委員会 浅羽宏美指導主事

令和4年度 ◎…プロジェクトチーム長 ●…主幹教諭

### 【研究に携わった教職員】

	2	◎馬場 友博	サポートルーム	大屋 桃花	教員支援員	土井実奈子
副校長 宮田浩顕 (3-3)	5-1	橋本 希美	サポートルーム	別府 由美	A L T	初岡 義弘
1-1 トレトノ友希	5-2	中村 勇風	栄養士	大久保絵美	カリキュラー	太田 真紀
1-2 宇都宮静香	6-1	●三浦 豊	読書学習司書	尾張 志保	カリキュラー	清水 景子
2-1 ◎佐藤 豪祐	6-2	◎原 千晶	講師	田中 文子	事務主事	犬山 理恵
2-2 有浦 久美	音楽	高妻 藍	講師	田村 優衣	事務補助	西野久美子
3-1 ◎今野麻衣子	図工	横道 広樹	講師	横山 吉雄	副校長補佐	矢渡 佳子
3-2 ●山本 雅志	算数少人数	楠本 良枝	支援員	本田佳代子	用務主事	益岡 勲
3-3 宮田 浩顕	養護	宮崎 怜	支援員	吉永 桃子	用務主事	関 正浩
4-1 山崎 歩実	サポートルーム	本山 龍祐	支援員	伊藤 はな	用務主事	矢内ケイ子

令和3年度 (教員)

副校長	松坂 公央	主幹教諭	鈴木 健二	教諭	村瀬 広明	教諭	井村絵里子
-----	-------	------	-------	----	-------	----	-------



